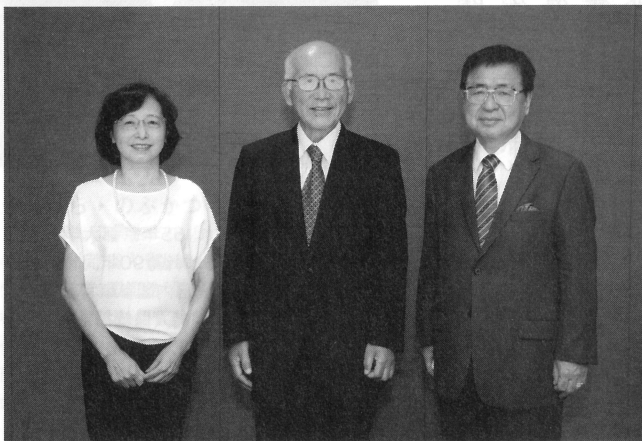


# 特別座談会 我らが母校・萩

3人の口からは偉人の名前が次々と出てくる——。1870年(明治3年)、藩校明倫館の流れを汲んで創設された山口県立萩高校。萩と言えば吉田松陰の存在を抜きにして語れない。萩高校での学生生活で松陰の教えをどのように学んだのか。元宮内庁長官の羽毛田信吾氏、元内閣官房副長官補の兼原信克氏、コスモピア代表取締役の田子みどり氏に学生時代の思い出と学びについて語ってもらった。



**萩高等学校**  
1718年(享保3年)に創建された長州藩の藩校である明倫館の流れを汲んで、1870年(明治3年)に萩中学として創立された。99年(明治32年)山口中学校萩分校と改称。1948年(昭和23年)の学制改革に伴って萩高等学校となり、50年(昭和25年)に萩女子高等学校と統合。2002年(平成14年)度から全学一斉に単位制高校に改編し、03年(平成15年)度から2学期制を導入した。校訓は「極めて誠実なこと。まごころ」を表す「至誠」。吉田松陰をはじめとした先人たちが生きる指針としてきた言葉だ。

任の先生が地学の先生で、市内を回って様々な石を集めてきていました。そして、採取した石を薄くして石の結晶にし、それを分析。萩の地質を分析してしましたね。受験勉強に何の関係があるのかと思いましたが(笑)。

—— その遠回りが良かったのでは(笑)。羽毛田さん、高校生という青春時代は人格形成をするのに重要な時期です。官僚になる道を選ぶ原点になったエピソードはありますか。

**羽毛田** わたしの高校時代を総括して言えば、大きな望みを抱いて一生懸命何かに向かって邁進したという思い出はないんです。むしろ、何となく受験勉強に追われ、鬱々とした日々を送ったというのが正直なところなんです。しかし、萩という土地で高校時代を過ごしたことは今になってみれば非常に良かったと思っています。

—— 将来の進路については、「公のために働いたら良いな」程度であまり深く考えませんでした。が、国事に奔走した先人のこと

が少しは影響していたかもしれせん。

—— 先ほど田子さんも言われましたが、萩は歴史が色濃く残る町であると同時に、菊ヶ浜をはじめ自然が豊かであったと。阿武川が橋本川と松本川に分岐。その分岐点に川島という土手があり、桜の名所として有名でした。桜の時期には友だちと花見をしに出かけていました。

—— それから運動会も思い出に残っています。少し受験勉強が気になりながらも仮装行列の準備に一生懸命取り組みました。わたし自身は萩の中心街ではなく、当時は川上村という阿武川の中流にある村の出身でしたので、バス通学のため時間的余裕があまりありませんでした。

—— 通学時間は？

**羽毛田** バスの待ち時間などを含めれば1時間半ほど。バスに乗っている時間は30分ぐらいでしたが、クラブ活動をする時間もなく、眠い目をこすりながらの通学でした(笑)。ただ、移動中の景色や雰囲気は非

# 高校の良さと伝統を語ろう!

母子愛育会会長 **羽毛田 信吾**  
Haketa Shingo

同志社大学特別客員教授 **兼原 信克**  
Kanehara Nobukatsu

コスモピア代表取締役 **田子 みどり**  
Tago Midori



司会・本誌主幹 村田 博文

## 吉田松陰を誇りに思う雰囲気

—— 宮内庁長官を務め、現在は母子愛育会会長の羽毛田信吾さん、萩と言えば明治維新をつくった吉田松陰が浮かびます。どんな学生時代でしたか。

**羽毛田** 私が通っていたのは1958年からの3年間ですが、やはり吉田松陰先生を非常に誇りに思う気持ちと、そういった先人に学ぶ雰囲気は先生の間にも、生徒の間にも強かったような気がします。郷土の先人を誇りに思い、それに恥じないような生き方を実践していかなければならないといった気風があったように思います。

校訓も「至誠」です。当時から「至誠にして動かざるものは、未だこれ有らざるなり」という松陰先生の教えは我々の考え方の基本になっていました。わたしの高校時代は60年安保改定の真っ盛り。経済でいえば高度経済成長の入口でした。日本が大きく動く時期で、東京・日比谷公会堂で演説中の浅沼稻次郎

社会党委員長が刺殺された事件を高校から帰る際のバス停の側にあった電気屋さんのテレビで観ました。

—— まさに戦後日本の転換期と言える時代ですね。

**羽毛田** ええ。ただ、我々はこのんびりしたもので、動乱とは無縁の生活でした。クラスで1、2回安保改定の是非について討論会を行った覚えはあります。当時の萩高校には家庭科というクラスもあり、男女比は全体では半々くらいでした。

—— 女性起業家の先駆けであるコスモピア代表取締役の田子みどりさんの萩高校の思い出を聞かせてください。

**田子** わたしは1976年からの3年間を過ごしました。わたしの頃も男女半々くらいでした。基本は男女一緒のクラスで、みんな元気でしたが、いささか封建的というか、男子の方が前に出ている時代でした。一方で文武両道が大切だと言われており、1年生のときは陸上部に所属。2年生になって挫折

し、帰宅部になりましたけど(笑)。

—— その後は部活に入らず、友達と青春を語り合っていました(笑)。高校は海の近くにあり、日本海を望む菊ヶ浜の海岸に足を運んで海を見ながら将来を語っていたことを覚えています。

## 理数科は3年間組替えなし

—— 内閣官房副長官補を務めた後、同志社大学特別客員教授の兼原信克さんは田子さんの2年先輩に当たりますね。

**兼原** はい。わたしは理数科でした。経済成長の最中なので理系の人材を育てるという方針があったのです。そこで8クラス中、1クラスだけが理数科でした。理数科は組替えがなく、3年間を同じクラスメイトで過ごします。女子は5、6人ほど。理数科なので実はわたしは日本史を勉強していませんでした。授業も科学系の授業がありました。そもそも萩の周辺は火山帯で、地層が入り組んでいる特殊な地域なのです。わたしの担



**かねはら・のぶかず**  
1959年山口県生まれ。81年東京大学法学部卒業後、外務省入省。総合政策局総務課長、欧州局参事官、国際法局長を歴任。第2次安倍政権で内閣官房副長官補(外政担当)、国家安全保障局次長を務める。2019年退官。20年から同志社大学特別客員教授。国際法、安全保障、ロシア(領土問題)、韓国が専門分野。

ていたんですね(笑)。でも、現実には甘くありませんでした。—— 両親は上京に対して賛成してくれましたか。  
**田子** 特段反対はしませんが、大学を出たら帰ってくることを希望していました。実際、私も教育実習で萩高校に帰ってきました。その意味では、両親には少し期待をさせてしまったのですが、結局、教員になることなく、再び東京に戻り、会社を作ってしまったと。コスモピアを会社組織にしたのは卒業の年の1983年になります。—— その頃は起業すること自体が少なく、女性の起業家もほとんどいませんでしたね。

**田子** はい。ただ、第2次ベンチャーブームではありました。ソフトバンクグループの孫正義さんやアスキーの西和彦さんなどが先輩起業家でした。その中でも女性の起業家ということで様々なメディアに取りいただき、少しずつお仕事をいただけるようになったという感じです。—— 田子さんの起業に萩高校での体験は絡むのですか。  
**田子** わたしが起業家としての人生を歩むきっかけになったのは、高校の倫理の授業でフランスの哲学者であるシモーヌ・ド・ボーボワールを勉強したことがきっかけです。彼女の説いた女性と一口に言っても、肉体

的な性としての女性と社会的な性としての女性とは別であるということを習ったのです。とてもインパクトがありました。ジェンダーギャップを越えるためには、東京に行かなくてはという気持ちが高まりました。—— 萩高出身らしく前向きな精神でやってきたのですか。  
兼原さんの高校3年間ほどのような時間でしたか。  
**兼原** 受験勉強がきつかったです。わたしは萩市の隣にある阿武町から国鉄の山陰本線で通っていました。当時はデゴイチ(D51)という蒸気機関車が走っており、夏に走行途中、笠山という休火山のある越ヶ浜付近を通り抜けるトンネルに入ると、開け放った窓から煤煙が充満し、服が真っ黒に。女の子たちは「キャー」と悲鳴を上げていました(笑)。一生懸命参考書を読んでも、トンネルを出る頃には、煤で黒くなってしまいうこともありました。  
萩高校は萩城の近くにあるので、最寄り駅は玉江駅。萩は小

さい街だけれども明治の偉人が多いので駅が3つあるんです。竹下登元首相が郷里の島根県内に出雲縁結び空港、萩・石見空港、隠岐世界ジオパーク空港を作ったのと同じです。玉江駅を降りると大きな橋があります。海につながると大きな川を渡るために雨の日も雪の日もこの橋を渡るのですが、田子さんのおっしゃった通り、凄まじい風が吹いていました。  
**「山口県人は理屈っぽい」**  
—— やはり兼原さんも冬の通学は辛かったですか。  
**兼原** ええ。橋も200mくらいありましたからね。海風がブワツと吹くんです。海しぶきの雨がバシヤツとかかかってくるので冬は凍えました。それを突っ切って学校に通っていました。ただ、帰りはわざわざ遠回りして市内の繁華街を通って帰っていました。途中でうどんを食べるのが楽しみでしたね(笑)。よく覚えてるのが学校の近くにあった田中義一元首相の大



**はけた・しんじ**  
1942年山口県生まれ。65年京都大学法学部卒業後、厚生省(当時)入省。90年同省大臣官房審議官、92年内閣官房内閣参事官室首席内閣参事官、95年厚生省老人保健福祉局長、98年同省保険局長、99年厚生事務次官。2001年宮内庁次長、05年宮内庁長官。12年退官。昭和三館館長などを経て、現在、母子愛育会会長。

常に良かった。  
阿武川沿いを走るバスが市街地に近づくと、急に景色が開け、真つすぐ前には城山である指月山がパツと見える。圧巻の景色でした。また、高校最寄りのバス停までの道すがら、1年生のときの同級生で文学とダジャレの好きな友人がいて、彼の話を聞きながら歩くのが楽しかったです。

### 萩は三角洲の町

—— 羽毛田さんにとってはバス通学が思い出なのですね。  
**羽毛田** そうですね。わたしは阿武川流域からのバス通学組は、阿武川があつたから明治維

新も成就したと威張っていたものです。  
—— どういう意味ですか。  
**羽毛田** 「風が吹けば桶屋が儲かる」ではありませんが(笑)、萩は三角洲の町で、阿武川が運んだ土砂が堆積してできたのです。その土地に毛利家は幕府によって移封された。そして年を経て、その土地から明治維新の狼煙が上がった。明治維新が成ったのも阿武川によって萩の土地が造られたればこそというわけですね。牽強附会の解釈かもしれないがね。  
もともと、村の祖先たちは、阿武川の水利を巡る萩の御用商人との争いもあつたりして、萩

の街に対して愛憎半ばするところがあつたようです。  
—— 藩内部は内部でいろいろな動きがあつたのですか。田子さんの通学方法とは？  
**田子** わたしは萩市内に実家があり、先ほどの松本川の畔に住んでいました。ですから、通学は自転車。家が近いお陰で毎日遅刻になりそうになりました。凄まじいスピードで通っていました(笑)。高校まで15分ほどで行きましたね。自宅から見ると学校が海の方にあるため、海風に対抗する形で自転車を漕がなければなりませんでした。  
—— ということは、冬は厳しかったのではないですか。  
**田子** ええ。もう大変でしたね。雪はそんなに降らないですけれども、冷たい風がすごく吹きますし、当時は学校にストンプもなかったもので、家から使い捨てカイロを持参していました。学校も寒くて休憩時間になると、日の当たるところに出ては暖をとっていましたね。  
—— 鍛えられたのですか。

さい街だけれども明治の偉人が多いので駅が3つあるんです。竹下登元首相が郷里の島根県内に出雲縁結び空港、萩・石見空港、隠岐世界ジオパーク空港を作ったのと同じです。玉江駅を降りると大きな橋があります。海につながると大きな川を渡るために雨の日も雪の日もこの橋を渡るのですが、田子さんのおっしゃった通り、凄まじい風が吹いていました。  
**「山口県人は理屈っぽい」**  
—— やはり兼原さんも冬の通学は辛かったですか。  
**兼原** ええ。橋も200mくらいありましたからね。海風がブワツと吹くんです。海しぶきの雨がバシヤツとかかかってくるので冬は凍えました。それを突っ切って学校に通っていました。ただ、帰りはわざわざ遠回りして市内の繁華街を通って帰っていました。途中でうどんを食べるのが楽しみでしたね(笑)。よく覚えてるのが学校の近くにあった田中義一元首相の大

生が4年生の大学に進学するとか、仕事を持つといったことがメジャーではない時代でした。ただ、同級生の中には4年生大学に進学する女子も多かったのですが、基本的には自宅から近いエリアの大学に進学していましたが、これは男女ともそうです。教育学部に行つて学校の先生になる人が多かつたですね。  
**ボーボワールの授業が起業へ**  
—— その中で田子さんは東京の早稲田大学に進学しました。  
**田子** はい。担任の先生からは「親御さんが可哀想だから、もっと近くの大学に進学して家に帰ってきてあげなさい」と言われたりしました(笑)。でも、わたしはそれを振り切りました。東京に行けば、もっと女性が活躍できる環境があるのでないかと思つていたので。具体的な何かがあつたわけではありませんでしたが、東京に行けば仕事に就けるといふ幻想を抱い



たご・みどり  
1960年山口県生まれ。83年早稲田大学第一文学部卒業。大学在学中に仲間の女子学生たちと起業、83年卒業と同時にコスモピアを設立し、社長に就任。ICTに関わるユーザサポートやショールームの企画運営、コンテンツの企画制作などを行う。女性創業応援やまぐち株式会社取締役（一社）女性活躍委員会理事、熱中小学校萩明倫館教頭など兼任。

きな銅像。賛否両論ありますが、調べてみると立派な方でした。他にも桂太郎公の邸宅もありましたし、もちろん、松陰先生の松下村塾や伊藤博文公の生家もありました。それから高杉晋作が柱に登って怒られた神社があったりして。そんな話をたくさん聞いたりしていました。

「総理だつて山口県人ではありませんか」と返しましたが（笑）。それから山口県は全国でも県民の中で国家公務員の比率が2番目に高い。

兼原 はい。高校を卒業して東京に来てよく言われたことは、どうも山口県人は理屈っぽい。安倍晋三元総理（故人）も言われていました。「だいたい山口県人は理屈っぽいんだよ」と（笑）。そこでわたしも詰まっています。

吉田松陰先生の存在が大きいです。松陰先生の言葉で現代語訳した書籍を読むと、ジーンとくるものがあります。松陰先生の教えは仏教というよりも儒教になります。「そう言

えば、高校でこういうものはたくさん教えられたな」と思い出しましたね。萩高校の敷地内には孔子廟のようなお堂もありました。漢文の先生からは「惻隱の情」の大切さを教えられました。惻隱の情については「何を忘れてもいいから、これだけは覚えておきなさい」と言われたことをよく覚えています。「優しさ」が大切ということですね。

から、天意とは民意なのだ」と公のために自らを犠牲にしても良いと考えていたのでしよう。

羽毛田 山口県人の話で言えば、わたしが高校に進学した1958年に評論家の大宅壮一さんが「権勢と反逆を生む山口県人」という論考を文藝春秋誌に寄稿されました。山口県人は権力志向が強い部分と反逆の部分の両方を持っているが、結論的にはその両方とも裏返せば同じだと指摘されていたのです。その典型が萩だと思いました。

わたしは結婚式を東京と萩の両方で開いたのですが、松陰神社の宮司様にも来ていただき、そこで宮司様からは「兼原君、松陰先生の感化力があつたのは優しかったからなんですよ」と言われました。この言葉はわたしの中に深く残っています。

歴史上の人物も、伊藤博文、山県有朋以下の政治家をはじめ、藤田財閥の創始者・藤田傳三郎や日立鉱山の開発者・久原房之助など権力側の大物がいますし、一方で、萩高校の先輩では『獄中十八年』を著した志賀義雄や共産党中央委員会議長だった野坂参三もいます。伝統的に権力志向的な面と反逆的な面の2つがあつたのです。当時の萩高校にも両面の気風は残っていましたね。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

初めに聞きました。もちろん一番は東京都ですが。明治維新が起きたことが背景にあるのでしょう。県民に公に尽くしたいという気持ちがあるのではないかと思います。

松陰先生の存在が大きいです。松陰先生の言葉で現代語訳した書籍を読むと、ジーンとくるものがあります。松陰先生の教えは仏教というよりも儒教になります。「そう言

めには優しさを大事にしていた。これが日本人、長州人の美徳だと思えます。

田子 萩は自然が素晴らしいし、子どもたちもとても礼儀正しくて親切です。ランニング中でも中学生や小学生が挨拶してくれます。外から来た人たちに對して親切で、皆が萩のことを考えて暮らしています。それは素晴らしい状況にあります。観光業は厳しい状況にありますが、若い人たちには萩を心のふるさとと捉え、自分の志を見直す場所としていただきたい。そういう意味では、萩にはポテンシャルがあると思えますね。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。

田子 わたしも松陰先生の教えは小さい頃から叩き込まれてきました。特に小学校で教育を受けました。毎朝、松陰先生の詩を朗唱して徹底的に教えられたんです。その中でもわたしの担任の先生は松陰先生を慕っていたので、朝に晩に松陰先生の言葉を引用して唱えていました。



山口県立萩高等学校校長  
岩崎 和弘  
本校は、白壁と緑豊かな松に囲まれた世界遺産「萩城下町」の中にある学校です。また、藩校明倫館の流れを汲み、今年度創立152年目を迎える歴史ある学校です。その伝統を受け継ぎつつ、高い志をもち、地域や社会に貢献するリーダーを育成するため、平成30年度に探究科を設置するとともに、課題の発見・解決力を育む探究活動の推進や、地域に活力と元気をもたらす小・中学校や企業・大学等と連携した教育活動など、常に新しい取り組みに挑戦しています。